

花乃井だより

学校
通信

令和4年12月7日(水)

第111号

大阪市立花乃井中学校

師走に入りました!!

早いもので今年も後1か月を切りました。今年もいろんなことがありましたが、もうすぐ幕を閉じます。皆さんにとってこの令和4年という年はどんな年でしたか？十分に振り返って新しい年を迎える準備をましょう。



《玄関掲示も冬バージョン》

ところで皆さんは“GRIT(グリット)”という言葉を何かで聞いたことがありますか？“GRIT(グリット)”とは「やり抜く力」のことで、アメリカの心理学者で、ペンシルヴァニア大学のアンジェラ・リー・ダックワース教授が提唱した言葉です。

- Gは“Guts(ガッツ)”のG。困難に立ち向かう「闘志」のこと。
- Rは“Resilience(レジリエンス)”のR。失敗してもあきらめずに続ける「粘り強さ」のこと。
- Iは“Initiative(イニシアチブ)”のI。自らが目標を定め取り組む「自発」のこと。
- Tは“Tenacity(テナシティ)”のT。最後までやり遂げる「執念」のことです。



アンジェラ教授は、かつて中学の教員をしていた際に、成績が優秀な生徒の共通した特徴が、頭の良さや生活環境ではないことに気づきました。そこから大学で研究を続けた結果「成功する人に共通する特徴は“情熱”と“粘り強さ”、すなわち『やり抜く力(GRIT)』である」と結論付けました。

同じような意味の言葉を並べてその頭文字をとったこの“GRIT(グリット)”。中でも、“レジリエンス(resilience)”は、逆境や困難・強いストレスに直面した時にもそれを跳ね返しての継続する力のことで、心の筋肉にもたとえられています。人は困難や失敗に直面して、心が折れそうになる時があります。実は困難や失敗は人の成長を支える根っこのようなものです。赤ちゃんの頃からそうしていたように、転んだら起き上がりたいだけのことなのです。失敗や落ち込みは、恥ずかしいことではありません。それどころか、乗り越えた経験がある人は、他者への共感力も身につきます。

また、“レジリエンス(resilience)”は、あきらめない心とも言えます。例えば、今年



皆さんが様々な場面で取組んだSDGsの取組み。目標があまりにも大きすぎて「自分一人が行動しても何も変わらないのではないか」と思った人もいると思います。地球社会が抱えている問題の複雑さを前にして、自分一人の無力感を抱く人も少なくありません。目標の大きさばかりに目を取られて「今の生活を少し変えたくらいでは意味がない」と思う人もいるかもしれません。“レジリエンス(resilience)”は、そんなあきらめの心に立ち向かう力なのです。

心の筋肉の鍛え方は、「まずは前向きになる（ネガティブをポジティブに、落ち込みから立ち直るための手段を見出す）こと。次に自分の強みを探ること。小さくてもよいので成功体験を積むこと。そして自分のサポーターを見つける（自分自身も誰かのサポーターになる）こと。最後に感謝の気持ちを豊かにすること。」が挙げられます。レジリエンスを高め、一人一人が今いる場所(環境)で、何ができるかをじっくり考え、コツコツと実践していくことが自分自身を含めて周りを前進させていくことに間違いありません。まずは身近なところから始めていきましょう。

1年学年役員会 ⇒ 定期テスト終わって気が緩んでるでー 家庭学習ちゃんと出しやー
冬休み入っても気緩まんようになー!!

2年学年役員会 ⇒ 今年の課題は今年中に解決しよう。

3年学年役員会 ⇒ 冷静に物事を考えて行動しよう。

風紀委員会 ⇒ 1年 風紀をみださないようにしよう。
2年 積極的にあいさつをしよう。
3年 あいさつの声を大きくしよう。

体育委員会 ⇒ 1年 気を引きしめて授業に取り組もう。
2年 寒くなってきたので、声をかけ合おう。
3年 防寒着を正しく着用し、私語をなくし、テキパキ行動しよう。

保健委員会 ⇒ 寒さに負けずしっかりと手洗いうがいをして、感染症対策をしよう!!

美化委員会 ⇒ 寒くなっているけど隅々まで掃除しよう!!

図書委員会 ⇒ 全体目標 本を読んだ後は、必ず読書のあゆみを書こう。

学年目標 1年 冬休みも読書にしっかり取り組もう。
2年 読書のあゆみをしっかり書こう。
3年 本に対する興味を持ち。読書のあゆみをしっかり書こう。

生徒会執行部 ⇒ 2学期残りわずか!! 提出物をパーカクトにしよう!!

